

11 広報関係

プレスリリース（令和元年度）

組織名 年月日	プレスリリースの内容
森林総合研究所 林木育種センター H31. 4. 4	タイトル：絶滅危惧種オガサワラグワの各地の植物園での保存『オガサワラグワ里親計画』一都立神代植物公園への苗木の受け渡しー 「オガサワラグワ里親計画」がスタートし、苗木の受け渡しについてプレスリリースした。 （要旨） 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図ること等を目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、小笠原諸島固有の樹木で絶滅危惧種のオガサワラグワを組織培養技術を用いて生息域外保存を行ってきました。各地の植物園等による確実な保存（分散保存）と展示を通してオガサワラグワを含めた小笠原の自然について、多くの方々に見て、知って、理解を深めてもらうことを目的として、森林総合研究所林木育種センター、日本植物園協会及び小笠原村とで実施する「オガサワラグワ里親計画」がスタートします。今回、里親第1号となる東京都立神代植物公園への苗木の受け渡しを行います。
森林総合研究所 林木育種センター R1. 9. 11	タイトル：茨城県ひたちなか市立市毛小学校の「市毛小のアカマツ」の後継樹の里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種開発等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。このサービスを利用した市毛小学校からの増殖の要請を受けて、接ぎ木により増殖し育てた「市毛小のアカマツ」の後継樹の苗木が里帰りします。
森林総合研究所 林木育種センター R1. 11. 5	タイトル：絶滅危惧種オガサワラグワの各地の植物園での保存『オガサワラグワ里親計画』一環境省新宿御苑への苗木の受け渡しー 「オガサワラグワ里親計画」で、苗木の受け渡しについてプレスリリースした。 （要旨） 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図ること等を目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、小笠原諸島固有の樹木で絶滅危惧種のオガサワラグワを組織培養技術を用いて生息域外保存を行ってきました。各地の植物園等による確実な保存（分散保存）と展示を通してオガサワラグワを含めた小笠原の自然について、多くの方々に見て、知って、理解を深めてもらうことを目的として、森林総合研究所林木育種センター、日本植物園協会及び小笠原村とで「オガサワラグワ里親計画」を実施しています。新たに里親となる環境省新宿御苑への苗木の受け渡しを行います。
森林総合研究所 林木育種センター R2. 1. 27	タイトル：絶滅危惧種オガサワラグワの各地の植物園での保存『オガサワラグワ里親計画』一尼崎市都市緑化植物園への苗木の受け渡しー 「オガサワラグワ里親計画」で、苗木の受け渡しについてプレスリリースした。 （要旨） 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図ること等を目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、小笠原諸島固有の樹木で絶滅危惧種のオガサワラグワを組織培養技術を用いて生息域外保存を行ってきました。各地の植物園等による確実な保存（分散保存）と展示を通してオガサワラグワを含めた小笠原の自然について、多くの方々に見て、知って、理解を深めてもらうことを目的として、森林総合研究所林木育種センター、日本植物園協会及び小笠原村とで「オガサワラグワ里親計画」を実施しています。新たに里親となる尼崎市都市緑化植物園への苗木の受け渡しを行います。
森林総合研究所 林木育種センター R2. 1. 27	タイトル：絶滅危惧種オガサワラグワの各地の植物園での保存『オガサワラグワ里親計画』一名古屋市東山動植物園植物園への苗木の受け渡しー 「オガサワラグワ里親計画」で、苗木の受け渡しについてプレスリリースした。 （要旨） 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図ること等を目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、小笠原諸島固有の樹木で絶滅危惧種のオガサワラグワを組織培養技術を用いて生息域外保存を行ってきました。各地の植物園等による確実な保存（分散保存）と展示を通してオガサワラグワを含めた小笠原の自然について、多くの方々に見て、知って、理解を深めてもらうことを目的として、森林総合研究所林木育種センター、日本植物園協会及び小笠原村とで「オガサワラグワ里親計画」を実施しています。新たに里親となる名古屋市長山動植物園植物園への苗木の受け渡しを行います。

組織名 年月日	プレスリリースの内容
森林総合 研究所林 木育種セ ンター R2. 3. 16	タイトル：福島県南相馬市の「かしまの一本松」の後継樹の里帰りー林木遺伝子銀行110 番による樹木の増殖サービスー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 森林総合研究所林木育種センターでは、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種開発等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110 番」を行っています。このサービスを利用した南相馬市からの増殖の要請を受けて、種子から増殖し育てた「かしまの一本松」の後継樹の苗木が里帰りします。
森林総合 研究所林 木育種セ ンター・ 九州大学 R2. 3. 16	タイトル：無花粉遺伝子をヘテロで保有する精英樹系統のリソースを構築 スギの無花粉遺伝子を高精度に検出できるDNAマーカーを活用し、無花粉遺伝子をヘテロで保有する精英樹系統のリソース構築についてプレスリリースした。 (要旨) 森林総合研究所林木育種センターと九州大学は、無花粉スギ「爽春」の無花粉遺伝子を高い精度で検出できるDNAマーカー活用して、全国の精英樹の中から無花粉スギ遺伝子をヘテロで保有するスギ21系統の存在を明らかにし、日本各地で多様な無花粉スギ品種の開発が進められるようになりました。また、今回明らかにした系統には、成長等に優れるスギ精英樹も含まれていることから、既存の無花粉スギ品種よりも成長等の特性に優れた品種が開発できると期待されます。今後この成果を活用し、林業や森林づくりに貢献する遺伝的に多様な無花粉スギ品種の開発を推進していきます。
関 西 育種場 R2. 2. 4	タイトル：重要文化財・冷泉家住宅の「冷泉家のオガタマノキ」の後継樹の里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、京都市上京区にある重要文化財 冷泉家住宅の庭に生える「冷泉家のオガタマノキ」（樹高約14.6m、胸高直径64.5cm）です。重要文化財である冷泉家住宅はかつての公家町にほぼ完全な姿で保存されている、ただ一つの近世公家住宅です。その庭に生える立派なオガタマノキは、22代冷泉為系氏の小学校入学祝いに明治20年頃に植えられたものと伝わっています。樹齢は100年を越し、幹には洞があり、近年は台風により被害を受けたことで、今後の衰退が懸念される状況でした。そこで、この由緒あるオガタマノキを後世に継承するため、冷泉家時雨文庫理事長であり現当主25代冷泉為氏より林木遺伝子銀行110番に申請がありました。関西育種場が親木から枝（穂木）を採取し、接ぎ木増殖を試みたところ、増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本を令和2年2月20日に里帰りさせることとなりました。
関 西 育種場 R2. 2. 10	タイトル：滋賀県の名勝・唐崎神社の「唐崎霊松」の接ぎ木苗の里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 今回里帰りする接ぎ木苗の親木は、滋賀県大津市の唐崎神社にある「唐崎霊松」で、樹高約5.6m、幹周り（地面から1.2m）395cm（直径125.8cm）のクロマツです。霊松が植えられている唐崎神社は滋賀県大津市の琵琶湖畔に鎮座し日吉大社の摂社であると共に近江八景「唐崎の夜雨」で知られる景勝地となっています。日吉大社によると、初代の霊松は舒明天皇5年（633）に、二代目は天正19年（1591）に植樹され、樹勢が衰えてきた明治20年（1887）に後継樹として植えられた実生の松が現在の霊松で、三代目となります。その後約130年の間に起こった自然災害による折損等で幹内部の空洞化が進み、平成29年頃より樹勢が急激に衰え、半分を切断せねばならない状況となり、同大社は、三代目霊松の顕彰（種の保存）とその育成を図ることとしました。平成30年6月に日吉大社より林木遺伝子銀行110番に申請がありました。翌年2月に親木から枝（穂木）を採取し、当育種場で接ぎ木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本を令和2年2月28日に里帰りさせることとなりました。
関 西 育種場 R2. 2. 17	タイトル：庄原市指定天然記念物「大古屋の大もみじ」後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 (要旨) 今回里帰りする後継樹の親木は、広島県庄原市東城町にある市指定天然記念物「大古屋の大もみじ」の内のイロハモミジ（樹高約10m、幹周約2.5m）です。「大古屋の大もみじ」は、大古屋谷の中央にある大古屋鉦の跡に生えるオオモミジとイロハモミジの2本で、美しい樹形をしており、初夏の青葉・秋の紅葉と鑑賞価値が高い名木です。樹齢は不明ですが、どちらもかなりの大木であり、伐採されなかったのは「たたら」の目印としていたためとも推測されています。庄原市教育委員会は、当初、樹勢が弱っていたオオモミジの増殖依頼を計画しましたが、新芽が出ていない状況だったため計画を断念し、今後の衰退が懸念されるイロハモミジについて、後世に継承する取り組みを行うこととしました。平成28年11月に庄原市教育委員会より林木遺伝子銀行110番に申請があり、平成29年4月に親木から枝（穂木）を採取し、当育種場で接ぎ木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本を令和2年3月3日に里帰りさせることとなりました。